

第2分科会 高等学校

# 社会に開かれた教育課程の実現に向けて ～笛吹コミュニティ・スクールの推進～

発 表 者 笛吹高等学校 校長 廣瀬 志保  
笛吹高等学校学校運営協議会 会長 山本 憲一

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
山梨県笛吹市	650名	令和5年度	15名	3回	3名

## 学校教育目標

- ◎ 自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎ 広い視野を持ち、地域社会の形成に進んで参画できる生徒の育成

## 笛吹GP

習得力・理解力・思考力・表現力・継続力・参画力

## 学校・地域の特徴

笛吹市唯一の高校で、「生涯を通じて生きる力の基礎となる『主体的に学ぶ力』を育て、地域に根ざし、地域に貢献し、地域のリーダーとなる人材を育成する」ことを目指している。学校のはじまりは明治28年に遡り、今日まで129年の歴史がある。この間、校名変更、2校への分離、再統合などを経て笛吹高校としては15年目となる。普通科・食品化学科・果樹園芸科・総合学科（4系列5コース）の総合制高校である。

自転車部、ソフトテニス部、ライフル射撃部、陸上部、植物研究部、すいれき太鼓部は全国大会の常連で部活動が盛んである。

## 学校運営協議会の概要

### 委員の構成

※地域代表・PTA会長・同窓会長・山梨大学大学院教授・山梨学院短期大教授・笛吹市教育長・笛吹市総合政策部部長・笛吹農業協同組合・山梨県建設業協会・笛吹青年会議所・石和温泉旅館協同組合・笛吹市立石和中学校校長・笛吹市立石和南小学校校長・笛吹高校校長・教務主任

### これまでの主な議題例

- ・探究を軸とする地域課題解決型の授業での連携の在り方。
- ・生徒の学校生活の安全安心。
- ・生徒の自己肯定感を高めるためにチャレンジできることについて。
- ・魅力ある高校づくりをするにはどうすれば良いか。
- ・学校評価について。
- ・高校生との交流会を行い、生徒と質疑応答をした。

### 組織

#### 学校運営協議会の部会

- 地域連携チーム：各教科・探究活動での地域連携の検討・支援
- 評価検証チーム：学校評価にかかわる検討・検証
- 広報チーム：笛吹高等学校の特色づくりの検討・広報活動
- 生徒育成チーム：生徒育成にかかわる検討・研修会の実施

## 地域連携活動の 特徴的な取組や工夫など

- 教科横断STEAM型の新教科「笛吹グローバル」、総合的な探究の時間での継続的な地域連携。
- 生徒が育てた地域の特産品であるシャインマスカットを台湾に輸出、販売して農業経営全般について学ぶ教育の推進。
- 小中学校との交流授業、合同研修の実施。
- 高校生世界農業遺産サミットの開催。
- カーバリアーの設置で登校の安全確保。
- 保護者による、中学校の保護者への学校説明会の実施。
- 学校評価の評価項目の検討と改善。
- 学校運営協議会委員に「笛吹CS必携」を配布して、学校運営協議会の意味、笛吹高等学校のスクールミッションや教育目標、年間行事などを共有。
- 令和6年度から、地域連携チーム、評価検証チーム、生徒育成チーム、広報チームの4チームをつくり、熟議できる環境整備。

## 特色ある4学科

- ◆ 普通科
  - ◆ 食品化学科
  - ◆ 果樹園芸科
  - ◆ 総合学科
- …環境系列  
…情報・観光系列  
…国際文化系列  
…人間科学系列
- …生活福祉コース  
…スポーツ科学コース



## 笛吹高校スクールミッション

普通科、総合学科及び峡東地域唯一の農業科をもつ地元密着の総合制高校として、生涯を通じて生きる力の基礎となる「主体的に学ぶ力」を育て、地域に根ざし、地域に貢献し、地域のリーダーとなる人材を育成する学校を目指します。

## グラデュエーション・ポリシー

- ★地域に根ざし、地域に貢献できる人材を育成していく。
- ★自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジし、広い視野をもち、地域社会の形成にすすんで参画できる心豊かでバランスのとれた生徒の育成をしていく。
- ★個を生かし、未来を拓く、自立した生徒の育成をしていく。
- ★「学ぶための基礎力」「学びを広げる応用力」「自己実現のための行動力」を育成する。

## カリキュラム・ポリシー

- ★探究を軸に各教科が横断的につながり課題設定・解決型の生徒の主体性を伸ばすカリキュラムを実施し、地域から期待される学校であり続ける。
- ★普通科、食品化学科、果樹園芸科、総合学科の4学科からなる総合制高等学校である。4学科それぞれの特徴を生かし、生徒の興味・関心、将来の進路希望に応える多様なカリキュラムを配置し、生徒一人一人の進路実現に向けた教育を実践していく。

## アドミッション・ポリシー

- ★本校への志望理由が明確であり、中学校における学習内容と基本的な生活習慣を身につけ、自己実現のために、何事にも地道に粘り強く取り組もうとする強い意欲を持ち、本校の教育方針を十分に理解し、かつ次の各学科の生徒像に該当する者。
- ・普通科：大学等への進学を目指し、自らの目標に向けて積極的にチャレンジしようとする意志のある者
- ・食品化学科：食品化学に関して強い興味・関心があり将来においても専門知識を生かそうとする意志のある者。
- ・果樹園芸科：果樹や園芸に関して強い興味・関心があり、将来、地域産業に貢献しようとする意志のある者。
- ・総合学科：自己実現のために、多様な科目の中から主体的に科目を選択し、自らすすんで進路を切り拓いていこうとする意志のある者。

## 学校教育目標

- ◎ 自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎ 広い視野を持ち、地域社会の形成に進んで参画できる生徒の育成

## 教育方針

- 個を生かし、未来を拓く、自立した生徒の育成に努めます。
- 個を高め、互いに切磋琢磨できる環境づくりに努めます。
- 学校・家庭・地域が一体となった学校運営に努めます。

## 教育の信条

生徒一人一人を大切に、どの生徒にも陽の当たる高校を目指します。

## 指導重点

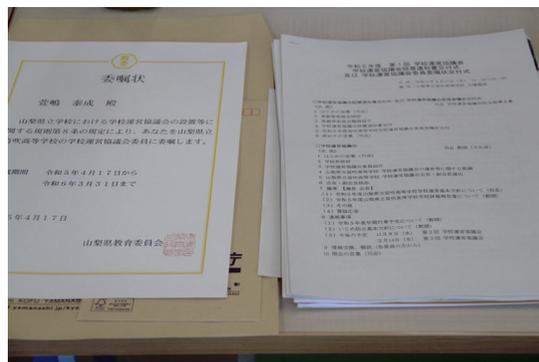
- 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかります。
- 日々の教育活動をとおして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかります。
- キャリア教育を推進し、各々の適性に応じた進路の実現をはかります。
- 探究を軸とした各教科が横断的につながり課題設定・解決型のカリキュラムを活かして、地域課題探究に取り組む意識と行動力を育てます。

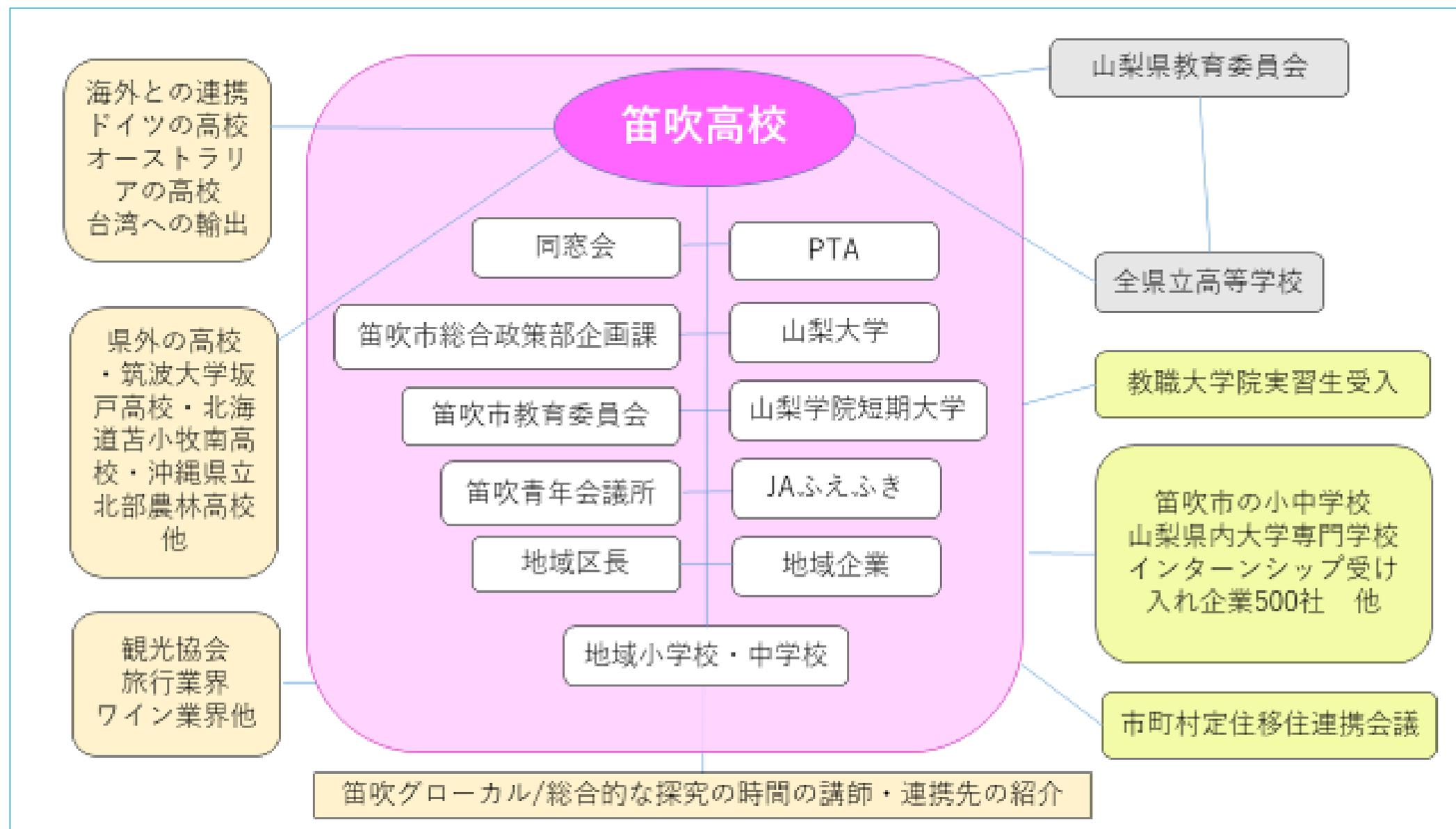
## 笛吹高等学校 学校運営協議会

令和5年4月17日設立

### ○委員

- ・PTA会長
- ・山梨大学教授
- ・山梨学院短期大学准教授
- ・笛吹市教育長
- ・笛吹市総務部長
- ・地域区長
- ・前PTA会長（地域住民）
- ・市立石和南小学校
- ・市立石和中学校
- ・農業協同組合（JA）
- ・笛吹青年会議所
- ・校長
- ・教務主任



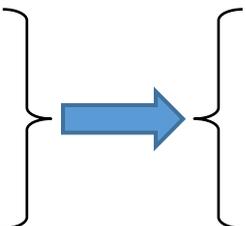


## 研究開発課題

教科横断STEAM型の新教科「FFグローバル」を設定し、地域社会との協働的な学びを実践し、探究的な学びにより言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の学習の基盤となる資質・能力、および主体的な学びの育成を目指す。さらに、普通科、専門学科、総合学科の特徴を生かし、生徒一人一人に応じた個別最適な学びが実現できる教科やカリキュラム開発を行う。

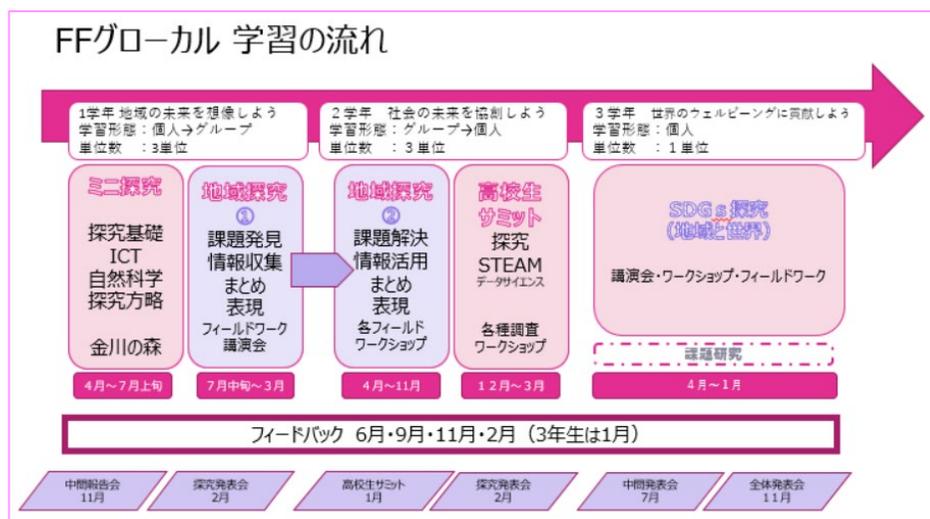
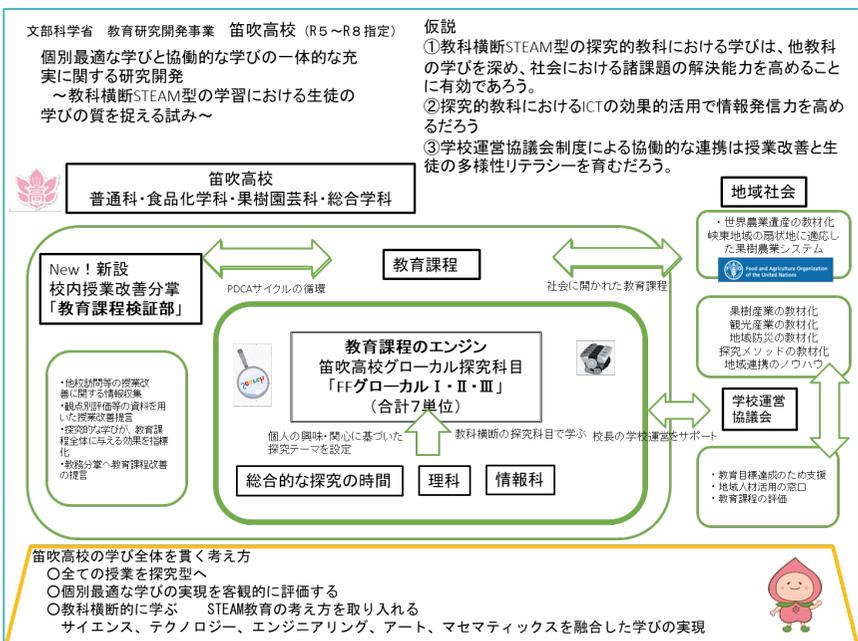
総合的な探究の時間

情報  
理科



FFグローバルⅠ  
FFグローバルⅡ  
FFグローバルⅢ

1年生	3単位
2年生	3単位
3年生	1単位



# 2 笛吹グローバル I 1年生 (3単位)

オリエンテーション

課題発見ワークショップ  
13講座の中から3講座を聞く

他の講座を聴いた人から13講座の中から3講座を聴いて地域の課題を知る

学校運営協議会委員等による講演会



月	活動の流れ	探究活動内容	評価対象	I学習の流れ (FFI)	I年GP
4月	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献</li> <li>・インターネット</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・他学年交流、地域との交流</li> <li>・講師による講演</li> </ul>	課題設定用紙	ガイダンス／先輩の話	理解力 吸収力 継続力
5月				思考ツール	
6月				情報モラル	
7月				調べ学習と探究の違い	
6月	解決策のための情報収集	企画書	地域を知ろう		
7月	課題設定		博物館を活用しよう		
8月	課題解決に向けての具体案	企画書	探究ワークショップ		
9月	情報収集		課題設定		
10月	整理・分析		企画書作成		
11月・12月	課題解決 整理・分析	中間発表	夏休みの宿題		
1月・2月	成果発表 まとめ・表現		探究マナー講座		
		PPT レポート	情報リテラシー／データサイエンス講座※		
			フィールドワークと資料作成		
			フィールドワークと資料作成		
			FFG中間発表報告会 (フェスタ)		
			発表資料のブラッシュアップ		
			世界農業遺産×笛吹高校		
			学年発表会・サミット・探究コンクール		

課題設定・  
情報収集

コンセプトマップを  
もとに中間報発

探究発表会



1年生のFFグローバルでは、地域と対話し、地域と協働し、地域に貢献する人材の育成を目指した教科横断的な学びを展開。自ら地域課題を見出すべく、地域との対話を実践する13のワークショップを行った。1人が3講座のワークショップを経験する。



## 市役所でのワークショップ

「総合的な探究の時間」で2年生210名が参加して笛吹市役所で山下政樹市長にも参加していただきワークショップを開いた。

環境や福祉、安全、産業などのテーマごとの班に分かれ、担当の課の職員と意見交換をした。

山下市長からは、市の予算の使い道や社会人としてのアドバイスがあった。

市への提言発表会 2月15日

最終発表会には笛吹市の職員の方に指導助言をいただいた。



学校運営協議会会長の山本憲一さんを講師にお迎えし、御講演いただいた。建設業界の現状と課題、未来についてお話をいただいた後、「中央道笛吹八代スマートインターチェンジから笛吹高校までの通りについて建設の視点で考えてみよう！ 県外から来た観光客の方に『また来たい』と思ってもらうためには、どんな取り組みが考えられるか」についてグループワークを行った。



12月の発表に向けて、収集した情報を分析して課題をブラッシュアップし、発表用資料としてまとめた。

グループごと役割分担しながら、スライド作成に取り組んだ。



共同編集機能を利用

### 学校運営協議会委員の講演と地域でのフィールドワーク

学校運営協議会委員の講演会を受けて、探究課題を生徒が自分事化するために、まず自分は何が好きで、何ができて、何に挑戦したいのかなど、自分について整理し、その後に自分の興味・関心や「できること」と「社会課題」を関連させるワークシートに取り組んだ。（will × need × can）  
その後、現状聞き取りのためフィールドワークを実施した。





コンセプトマップは地域の方に一枚ペーパーで探究内容を説明して実践に結び付けるためのシート



探究課題  
人口減少に歯止めをかけるには

キャッチコピー  
安心して暮らせる家を、後世へ

私たちの想い  
男女別大学生専用のシェアハウスをすること。農園や果樹園の近くに家を建て、野菜を育てたり、収穫を手伝ったりすることで農業を楽しむことができ、大学生の食費を浮かすことが出来ると考えました。

探究課題  
笛吹市に来てくれる観光客を増やすには

キャッチコピー  
花めく 笛吹市

私たちの想い  
学習を進める中で、笛吹市について知らないことがたくさんあると気づきました。観光客に呼びかける探究を進めることで、私達自身笛吹市への理解が深まるだけでなく、笛吹市の活性化につながるようになっていきたいです。



発表も回数を重ねて自分の言葉で話せた

メンターからのアドバイスで改善点が多く見つかる 13



発表後の質疑応答



メンターや大学の先生方からの講評

## 2 部学科やクラスの枠組みを超えた活動

### 広報誌プロジェクト

笛吹市の移住・定住を促進するパンフレットの表紙モデル、授業でインタビューをした内容について掲載



### ももりん自販機プロジェクト

学校運営協議会委員や企業・地域住民の協力を得て、地域の活性化を図るイベント実施



1年生10名が『これからの街づくり』についてインタビューを受けた。インタビューアーは、笛吹市役所の3人の若手職員で、「早稲田大学マニフェスト研究所人材マネジメント部会」で研究活動をして、日頃、高校生が感じたり考えたりしていることを聞き取って、これからの街づくりの構想につなげていくとのこと。最初は緊張していた生徒たちも、これまで調べてきて分からなかったことや、これからやってみたいことを発言し、自分たちの学びも深めた。



## 保護者対象 進学相談会開催

10月7日(土)に、中学生の保護者の方々が本校生徒や本校卒業生の保護者と高校進学について相談する相談会を実施しました。

当日は、中学生の保護者の方々と本校生徒の保護者が、高校選択の話題から思春期を迎えた中高生の悩み事まで、ざっくばらんにお話をしました。少人数であるからこそその和やかな雰囲気でした。

今年、初めての企画でしたが、改めて本校生徒の保護者が本校の教育活動について十分御理解頂いた上で生徒を預けてくださっていること、笛吹高校を支えてくださっていることを実感しました。

御参加いただいた中学生の保護者の皆様、本校生徒・本校卒業生の保護者の皆様ありがとうございました。

HPより



## 2 台湾へのブドウの輸出（JAふえふき）

果樹園芸科では、実習で栽培管理、収穫したブドウ「シャインマスカット」を平成30年に初めて台湾へ輸出。生徒・教員が現地を訪れて販売PR活動を実施した。翌年の第2回目の活動では甲府第一高校探究科の生徒と共に訪問して以来、新型コロナウイルスの影響で3年間活動することができなかったが、令和5年度、再開に向けた活動を進めた。6月12日、現地販売PRへ参加する果樹園芸科3年生3名が、JAふえふき本所の販売指導部を訪れ再開に向けた準備のお願いをした。また、6月15日には果樹園芸科3年ブドウ専攻13名が、JAふえふき指導部指導課の菊島様から「シャインマスカットの管理法」や最終的な房型を決める「摘粒」を、生徒一人ひとりに丁寧にご指導していた。

甲府第一高校探究科の生徒も共に台湾販売PRを実施することから、6月23日に本校附属農場で、甲府第一高校生7名がブドウの栽培管理体験をした。9月には3泊4日で台湾での実習を行った。



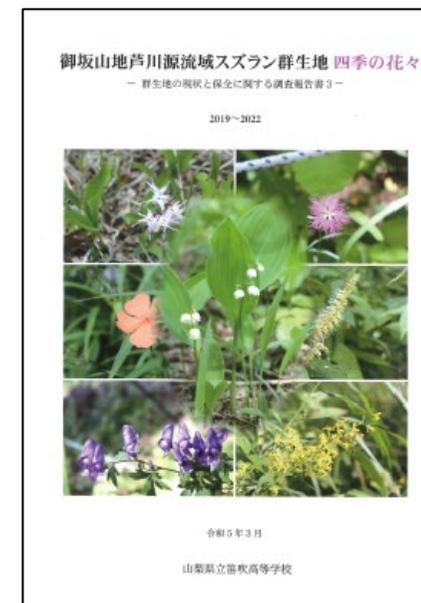
## 選挙の投票済証のデザイン画



## スズラン群生地の保護活動



## 芦川直売所壁画の制作

御坂山地芦川源流域スズラン群生地 式の花々  
群生地の現状と保全に関する調査報告書

## 植栽箇所での萌芽・階下の様子（2024年5月29日）



生徒や地域の安全について→生徒の道路への自転車の飛び出し→停止線→カーバリアー設置

地域からは校舎から一般道に出る際の危険性が指摘されました。一旦停止の標識、停止線、最終的にはカーバリアーを設置して対応。事故の未然防止は学校にとってもヒヤリハット対策となった。



登下校の交通事故防止に向けての対策

### 学校運営協議会委員と生徒の懇談会

学校運営協議会の前に、委員の方々と各学科の生徒との懇談会を実施。司会進行は生徒が務め、生徒が日ごろ力を入れていることや目標、なりたい自分について話をした。

その後委員の方から生徒に「笛吹高校のチャームポイントは?」「高校時代に学びたいことは?」「生徒活動の様子は?」など、学校の様々な取り組みについて質問があり、生徒は自分の言葉で誠実に回答していた。

16時から第2回学校運営協議会を実施。主な議題は「学校評価・中間評価の結果報告」と「研究開発学校中間報告」。最後に運営協議会委員より評価は「学校評価に関して、データサイエンスを取り入れたらどうか」など御助言をいただいた。また、今後協議会の活動を活性化するために、分科会を作り小回りのきく活動にしていこうという意見が出た。



山梨県峡東地域の果樹農業システムが世界農業遺産に選ばれたことから、本校で「高校生 世界農業遺産サミット」を開催、はじめに農林水産省 石堂 農村環境対策室課長補佐の話を聞き、県内4校から集まった生徒とともに、各自が探究していることについて小グループで発表しあい、意見交換し、後半は世界農業遺産の価値、活用方法、高校生にできることの意見交換、発表をした。



農林水産省  
農村環境対策室課長補佐  
石堂 和佳子氏



県内5校の高校生が探究したことを発表した。



第3回 学校運営協議会  
年度末の評価と課題の整理をした。

## 課題

【課題1】継続的な小中学校との連携の確立。

【課題2】学校評価の項目の定量化。

【課題3】特色である探究できる高校であることの周知。

## 4つのチームで詳細を検討

新たに「地域連携チーム」「評価検証チーム」「広報チーム」「生徒育成チーム」の4チームををつくり組織的に活動する。



## 解決に向けて

【課題1】中学校の総合的な学習の時間のオリエンテーションや発表の機会に連携。

高校での実践事例の紹介や探究の楽しさを伝える。

小中高の教員での研修会の実施。

陸上部員が小学性に陸上競技会前の指導をする。

すいれき太鼓部が小学生に太鼓の打ち方の指導をする。

【課題2】学校評価の項目の見直しを行い、検討中。

【課題3】クラウドファンディング型ふるさと納税に挑戦。

【継続】総合的な探究の時間・FFグローバルの授業で地域人材の継続的な連携活動の推進。

【道徳】生徒にはSOSの出し方、教員にはSOSの受け止め方と初期対応の講演会を計画。



1 授業では、学習の目標を明確に示していますか。

→ 授業では、本日の学習の目標を毎回の授業の始めに示していますか。

2 授業あるいは単元で、振り返りを実施していますか。

→ 授業あるいは単元の終了時に、振り返りを実施していますか。

3 振り返りを、授業改善や個別の指導に役立てていますか。

→ 振り返りの結果を受けて、授業改善や個別の指導を行っていますか。

4 話し合いや発表などの主体的で対話的な活動を授業に取り入れていますか。

→ 話し合いや発表などの主体的で対話的な活動を授業内で\*1回以上、行っていますか。



教員の



生徒の



学校の



地域の

